

平成27年度事業報告書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

認定NPO法人 IVY

1 事業の計画に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 世界の困窮した状況に対する迅速かつ適切な協力活動

事業名	事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業額(千円)
カンボジア王国 スバイリエン州 農産物組合の 持続的な経営 体制の確立を 通じた農村にお ける貧困削減 事業	<p>【内容】「スバイリエン州農産物組合(SAC)の持続的な経営体制の確立を通じた農村における貧困削減事業 フェーズⅢ」日本NGO連携無償資金協力(通称「N連」)(2015年3月～1年間) スバイリエン州農産物組合(SAC)の持続的な経営体制の確立を通じ、貧困農民の生計向上を目指す三ヵ年事業の3年目。</p> <p>本事業により、前年度、少額ではあったが赤字だったSAC(スバイリエン州農産物組合)の年間収支を黒字に転換させ、組合で雇用している事務局員の給与を払えるだけの収益を生み出し、これまでIVYスタッフ9名で支えてきた組合業務を事業終了時に全てSACに委譲し、最低限のIVYの関わりでSACがまわっていきただけの下地を作り、組合の仕組みとして完成させることになった。</p> <p>1. 野菜の生産を強化し、市場ニーズに合わせた生産を促進する。</p> <p>【指標】モデル畑が10か所で開設される。市場ニーズと生産調整に関する情報が毎月、組合員に提供される。</p> <p>【実績】モデル農家10戸の圃場で高設栽培棚が建てられた。栽培計画カレンダーが、月に一度11日よりゾーンリーダーに配布された。</p> <p>2. SACの商品の付加価値を高める。</p> <p>【指標】72名の有機認定が更新され、有機認定野菜の注文が毎週入る。認定外野菜を地元へ卸す価格より、認定野菜のSACへの卸値が高くなる。(これによってSACの有機野菜に付加価値がついたと判断される。)</p> <p>【実績】103名が有機野菜、56名が有機米の認定を受けた。</p> <p>3. 組合が自立的、持続的な事業運営が行える体制をつくる。</p> <p>【指標】サブライマネージメント、マーケティング、会計、人事、組合員へのサービス、クレジットプログラム、店舗運営等を組合事務局が担える体制が整う。組合の2015年の純益が収益の1%以上になる。(現在はマイナス5.6%となっており、プラス1%</p>	4/1～ 3/9	カンボジ ア王国 スバイリ エン州の 60村及び プノンペン 市	18 人	スバイリエ ン農産物組 合のメンバ ー300名	30,804

	<p>に引き上げることは6.6%成長させることを意味する。)</p> <p>【実績】組合事務局は5名のスタッフを抱え、全ての業務を事務局で担っている。組合の2015年の純益は収益の44.6%で昨年度より50.2%成長した。</p> <p>【成果】イオンから安定して一定量の注文が毎月入り、SACの野菜の出荷量は2014年と比較して54%も伸び、収益は14,346ドル(約160万円)の黒字に転換し、SACの人件費を賄えるシステムが確立された。農業技術指導、品質管理などの業務もSACのメンバーが行うことになり、IVYの試験農場も地元の大学生3名に運営が移譲された。</p>					
カンボジア王国2州における農業協同組合の有機農産物販売強化を通じた貧困削減事業フェーズI	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレイヴィヒア州の有機米生産者組合連動に新規農業協同組合(4つ)の参加 2. プレイヴィヒア州の農協と農協連合のマネージメント能力の強化 3. スバイリエン農産物組合の出荷センターの建設 <p>【成果】</p> <p>新旧事業の継ぎ目に当たる3月10日から31日までは、スバイリエン事務所の閉鎖に伴う引っ越し作業、プノンペン事務所の引っ越し作業、4月に開始予定の4農協対象のワークショップに向けた準備、出荷センター建設契約準備を行った。</p>	3/10 ～ 3/31	カンボジア王国プレイヴィヒア州、スバイリエン州	9人	754人	1,016
カンボジア王国スバイリエン州算数教育プロジェクト(IVYyouthの活動)	<p>【内容】 これまでに支援対象地域では教科書をはじめとする教材の不足、教科書の難易度の高さが指摘されており、これらを解決する手段として小学校1年生用ドリルの作成・配布を行ってきた(2015年3月末までに18校、4100冊配布)。前年度の調査により、政府による教科書の配布の頻度や冊数に改善が見られるが、依然として教科書が不足している学校が多数ある状況の中で、算数ドリルは学校現場で一定の役割を果たしていることが確認できた。IVYyouthは最終的にはスヴァイチュルン郡の60校全校への支援を目標としており、2015年度も支援校を広げ配布。前年度の渡航時に、現場の教員から内容について改善を求められた部分もあり、より現地の実情(修行時間数、理解度、要望等)に合わせたドリルとなるよう改訂を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 算数ドリルの問題数の見直し、及びレイアウトの改訂 2. カンボジアと日本の算数教科書・副教材・学習指導要領の再分析、支援校の拡大 3. 現地のニーズに合った文具(ペン、ノート等)などの教材支援 <p>【指標】小学校21校に1年生用算数ドリル3170冊を配布</p> <p>【実績】小学校32校に1年生用算数ドリル3778冊を配布</p> <p>【成果】</p> <p>カンボジア教育支援や地球子どもキャンプでの長年の功績が認められ、第9回かめのり賞(かめのり財団)を受賞(賞金50万円)。READYFOR?というクラウドファンディングに初めて挑戦し38万獲得、また三井住友銀行ボランティア基金より100万円の寄付を受けることができ、資金の目処が着いたこともあり、</p>	4/1～ 3/31	カンボジア・スバイリエン州スバイチュルン郡、仙台市、山形市	25人	2,044人	1,426

	目標を10校上回る32校に算数ドリルを配布することができた。					
イラク国クルド人自治区アルビル県のキャンプ外に住むシリア難民児童及びイラク国内避難民児童を対象とした教育支援	<p>【内容】2015 年度も、イラク北部のクルド自治区を拠点として、25 万人のシリア難民、110 万人のイラク国内避難民に対し、支援の遅れているキャンプ外の人々への支援を行った。特に、「子どもたちが避難先で学校に通えていない」という問題や、「少数教徒の人々の支援が遅れている」という問題の解決に力を注いだ。(ジャパンプラットフォーム助成事業) 「イラク共和国アルビル県のキャンプ外難民児童に対する教育支援 フェーズⅢ」 国内避難民及びシリア難民の子どもたちに対し、教育の機会を提供する。</p> <p>1) ガンジャン補習校の開設と運営 【指標】100人が登録 【実績】218人が登録</p> <p>2) ガンジャン小学校の開設と運営 【指標】240人が登録 【実績】700人が登録</p> <p>3) コバニ小学校－体育、美術、音楽の強化 【指標】担当教師が授業をできるようにする。 【実績】達成</p> <p>4) コバニ小学校－貧困地区の通学バス支援 【指標】234人以上が通学バスで通う。 【実績】242人が通学バスで通えた。</p> <p>【成果】・国内避難民の子どもたちのために4月から8月まで補習校を運営し、218人が再び学べる場を取り戻した。また、この子どもたちが公教育を受けられるよう、プレハブ校舎(教室9、職員室2他)を建て、公立校へ昇格させた。中学・高校も併設されることとなり、結果、<u>450人の小学生と250人の中学・高校生が徒歩圏内の学校に通うことができるようになった。</u> ・一昨年度、IVYで公立校昇格に成功した1校目の「コバニ小学校(シリア難民760人)」に対して、体育、音楽、美術の各担当の先生たちへのトレーニングを行ったり、ボールや楽器、絵の具等の教材を支援したことにより、子どもたちは授業を楽しみながら、創造性や感受性、身体機能を伸ばすことができた。また<u>貧困地区に避難している242人の子どもたちをIVYの用意した通学バスで、学年の終わり(5月)まで学校に通わせることができた。</u></p> <p>■中東理解講座2015 【内容】 IVYイラク事務所のスタッフが来日するに当たり、アジアプレス玉本英子さんを招き、シリア難民支援、イラク国内避難民支援への理解の促進を図るため、昨年に引き続き中東理解講座を3箇所で開催した。 (山形市11/25 仙台市11/26 東京都11/27) 講座は、前半をアジアプレス玉本英子さんによる講演「ISの台頭～現地で何が起きているのか」、後半はIVYイラクスタッフ シーラン・シャーが、「子どもたちの未来を守る」というテーマで、イラクにおける難民の状況、IVYの支援内容について報告を行った。現地にも何度も足を運び取材活動をされてきたジャーナリスト玉本さんからは、映像や写真を交え、現地で得た生の情報を伝えてもらうとともに、現地スタッフシーランは</p>	3/30 ～ 12/31	イラク国クルド人自治区アルビル県	7人	1) 補習校 218人 2) 公立校 小学生 450人 中高生 250人 3) 242人がバス 通学	26,839
		11/25 11/26 11/27	第1回/山形市市民活動支援センター 第2回/仙台市情報産業プラザ 第3回/早稲田奉仕園(東京)		講師2人 参加者 3会場合計 125名	

	<p>自らの難民体験にも言及し、難民の子どもたちへの教育支援の大切さを市民に訴えた。</p> <p>山形会場参加者28名 仙台会場参加者58名 東京会場参加者39名</p> <p>【効果】参加者からの感想「これからも、このような現地に行くことのできない地域に住む一般市民に生の声、情報を聴く機会を、提供してください」「シリア難民のことだけでなく、国内避難民について詳しく知ることが出来た」「自分の目で1つ1つ考え、正しい情報を見つけていくべきだと思った」「シーランの自らの戦争体験のお話は、とても心に痛く感じた」「現地での映像を交えた、よりリアルなお話が聴けて、自分が知らなかったことの多さに唖然としてしまった」「イラクの人に会うのも初めてだったので、大変貴重な機会だった」</p>					
イラク共和国アルビル県キャンプ外のシリア難民・国内避難民への越冬支援・生活物資配布事業	<p>【内容】</p> <p>1. 「イラク共和国アルビル県キャンプ外の国内避難民への生活物資配布事業」 28.5万人の国内避難民が避難しているアルビル県で、特に支援が遅れている12地区約1300世帯(7,800人)に対して、灯油、越冬用品等の生活物資を配布。(ジャパンプラットフォーム助成事業)</p> <p>【指標】灯油60ℓ、冬服を1,300世帯に配布、また紙おむつを乳幼児200人分配布。</p> <p>【実績】灯油1,313世帯、冬服1,253世帯、紙おむつ410人、生理用品1,356人に対し配布を行った。</p> <p>2. イラク共和国アルビル県キャンプ外シリア難民への越冬支援事業 11.2万人のシリア難民が避難しているアルビル県で、難民キャンプの外で避難生活を送る1,300世帯(7,800人)に対し、越冬に必要な不可欠な灯油及び生活支援物資を配布。</p> <p>【指標】灯油60ℓを1,300世帯(7800人)に配布。 紙おむつを乳幼児500人に、生理用品3,000人に配布。</p> <p>【実績】灯油1,846世帯(11,076人)、冬服168世帯、紙おむつ乳幼児730人、生理用品3,692人に配布を行った。</p> <p>【成果】年度の途中で、追加の助成金をジャパンプラットフォームから受けられることとなり、<u>延べ33,668人と過去最大規模の越冬支援を行った。</u></p>	10/1 ~ 3 /31	イラク国クルド人自治区エルビル県エルビル市とその近郊、ドホーク県	7人	延べ33,668人	39,422

②国内外の災害救援活動

事業名	事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業額(千円)
東日本大震災支援事業	<p>・4月中はあいびい保育園が前年度末の3月31日で閉園したことに伴う施設の解体工事をはじめ、他の保育施設への備品の寄贈等を行った。</p> <p>・また、保育園に通っていた家庭へのフォローアップを行った。</p> <p>・4年に及ぶ支援活動の総括と資料整理、及び次年度実施予定の「緊急救援活動原則」の策定のための準備を行った。</p>	4/1 -3/ 31	あいびい保育園、山形市周辺、IVY事務所	4人	5名	1,835

③日本に定住する外国人への支援活動

事業名	事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業額(千円)
通訳翻訳サービス	法テラスや山形県弁護士会、弁護士事務所、自治体、医療機関などからの依頼に応じて、通訳翻訳サービスを提供する。適正な通訳や翻訳を行えるよう、法律勉強会を実施する。また、中国語通訳の自主勉強会を実施する。 【実績】ベトナム語 48 件、中国語 26 件、英語 4 件、韓国語 2 件、タイ語 1 件 計 81 件（請求書件数） 【成果】・協力してくれるベトナム語通訳者を数名確保できた。 ・山形県弁護士会の協力で法律勉強会を村山と庄内で実施し、同時に模擬通訳や倫理規定を確認。通訳に当たって留意してもらいたいことを共有した。	4/1 ～3 /31	日本国内	4人	81人	1,312
第9回日本語スピーチコンテスト	外国人による日本語スピーチコンテスト。10月17日（土）山形市男女共同参画センターファーストにて実施。共催：国際ソロプチミストかみのやま、後援：山形県国際交流協会、山形市国際交流協会、山形子どもサポートネット。	10/ 17	山形市男女共同参画センター	4人	出場者4名 参加者30名	81
中国にルーツを持つ子どもの学習支援	山形市立第九小学校区を中心に、中国にルーツを持つ子どもの学習支援を行う。山形市子どもサポートネットと共催。 【成果】山形市立第九小学校区を中心に、中国にルーツを持つ子ども9名に対し、市営団地集会所にて夏休み3日間、9月以降月一回の割合で5回の学習支援を実施した。ひとり親家庭や発達障害など子どものニーズが把握できてきた。	4/1 ～ 3/3 1	山形市第九小学校学区	3人	参加児童 9名	7
多言語相談	電話や面談、同行支援による支援。経済的に貧しい方からの相談が多く、収支は赤。	4/1 ～ 3/3 1	山形県内	4人	71人	53

④地球市民を育てる国際理解教育・環境教育

事業名	事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業額(千円)
ファシリテーター養成事業	地球子どもキャンプに先立ち、リーダー養成のための講座を行い、環境教育アクティビティ実践、ファシリテーター体験、プログラム企画講座などを行い、また地球子どもキャンプのテーマについても話し合い決定した。 【効果】地球子どもキャンプが成功するか否かは、養成講座におけるテーマ設定の話し合いを十分に行えたかどうか鍵となっている。テーマ選択について納得できないままプログラム企画に入ると、途中で迷いが生じてしまう。そこで最近では、「テーマ」決定に至るまでのプロセスを重視しており、今回の養成講座においても、テーマ決定までの時間を確保。最後は全員が納得出来るテーマ設定ができ、結果子どもたちが楽しく学びやすいプログラムを、当日展開することが	10/ 25・ 26	朝日少年自然の家	1人	22人	117

	できた。					
地球子どもキャンプ	<p>【内容】12月に山形県朝日少年自然の家で実施。留学生からの提案もあり、世界各地の環境政策、環境保護運動について取り上げることとなった。</p> <p>～ 当日のプログラム ～</p> <p>① フィールドビンゴ 冬の森の中から探せるものは？</p> <p>② 森林を守るためには？ コスタリカの森林保護政策をすごろくゲームで体験。</p> <p>③ 100マイルダイエット カナダの若者が考えた地産地消の取り組みに挑戦。</p> <p>④ ギャラクシーナイトハイク 星をテーマにアクティビティを体験。</p> <p>⑤ 外国の遊び フランスの遊びを体験。</p> <p>⑥ リサイクルは本当にエコなのか？ 日本は世界でもトップクラスのリサイクル国。しかし、リサイクルは本当に環境に良いのか？</p> <p>⑦ アイヌの人々の自然観から学ぶ 熊狩りゲーム、アイヌ民族に伝わる民話の紙芝居、イオマンテ(熊の霊送り)の踊りなどから、昔の人たちが自然とどのように向き合ってきたのかを知る。</p> <p>【実績】12月26～27日(1泊2日)。キャンプリーダー27名、参加児童40名。</p> <p>【成果の一例】今回は、日程の都合で、1泊2日のキャンプとなったが、その分プログラムが集約され、環境政策、保護という観点で、わかりやすく子どもたちにも伝わった。</p>	12/26-27	朝日少年自然の家	指導者30人	小学生40人	416
難民を知るワークショップ	<p>IVYのイラクにおける難民支援事業をもとにした「難民を知るワークショップ」を、IVYイラク担当が中心となり、シリア元JICA青年海外協力隊員と協力して、ワークショップを作り上げ、2箇所で開催し、市民の難民への理解の促進を図った。</p> <p>【ワークショップの内容】</p> <p>グループに分かれ、各グループがシリアに住む1組のクルド系シリア人の家族になる。導入⇒ラウンドⅠ⇒ラウンドⅡ⇒ラウンドⅢの4部構成で、クイズ形式で難民についての基礎知識をインプットし、その予備知識も生かしながら、クルド系シリア人がシリア紛争に巻き込まれ、難民となってイラク・クルド自治区の難民キャンプにたどり着き、3か月を過ごしたところで次の課題が見えてくるまでを模擬体験する。</p> <p>【実施】</p> <p>青森(11/7)NGO相談員出張サービスとして実施。 仙台(2/13)IVYみやぎと連携し実施。</p> <p>【成果】・NGO相談員、JICA国際協力推進員、国際交流協会の三者がそれぞれの経験や持ち味を生かした結果、「難民ワークショップ」という成果物を生むことができた。</p> <p>・(参加者からの感想)「進め方が参考になった」「受動的な内容ではなく、グループで考え、能動的に難民問題と向き合うことができ満足している」「ワークショップ形式で参加者みな楽しみながら学べた最新の情報を知ることができた」「現地での生の情報を知</p>	11/7 2/13	青森市 仙台市	3人	参加者 青森24名 仙台31名	

	ることができた」「じっくり考える時間はなかったのですが、焦らずに判断する事ができ満足です。→講師の方の時間配分に満足です」「こういった座学的なイベントでは集中力を持続させるのが難しいのですが、最後までよく考えることができた」					
国際理解教育普及事業	<p>【内容】IVYは地球上で起きている出来事に対して、自分とどう関わっているのかという視点で見ること、その上で問題の解決に向けて自分が出来ることを考察出来る人材の育成を目指し、教育現場へのファシリテーター派遣事業等を行ってきた。</p> <p>1) 2015国際理解実践フォーラム 今年の参加者は94名となった。IVYは全体の運営に関わったが、特に教員が主体の分科会では、内容の検討、人選等にも関わった。またユースも分科会を担当し、ワークショップ「貿易ゲーム」を行った。</p> <p>2) 開発教育ワークショップのファシリテーター派遣 派遣実績18件（宮城10、山形・福島・北海道・東京各2）</p> <p>3) IVYyouthの国際理解教育・環境教育活動 IVYの担当者と連携し、地球子どもキャンプの企画運営、学校でのワークショップを行った。</p>	4/1 ～ 3 /31		12人	約600人	360

⑥関連団体及び関係する県内、国際機関との情報交換、連絡調整及び協力、並びにこの法人の目的にかなう事業を行っている他団体に対しての助成援助

事業名	事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業額（千円）
外務省NGO相談員相談事業	<p>1) 東北 6 県を担当し、国際協力、国際理解教育、認定制度、NPO 法人設立、助成金等について寄せられる問い合わせに対応した。</p> <p>2) 相談件数 1,101 件 出張サービス 5 件(青森 2、宮城 1、福島 1、東京 1)</p>	4/1 ～ 3/3 1	東北6県、 東京等	3人	1,674人	3,341
IVY みやぎ事業	<p>2012年9月から人材獲得やファンドレイジングを目的に、宮城県仙台市に支部「IVYみやぎ」を設置。東日本大震災以降、シリア難民支援、イラク国内避難民支援など緊急支援事業等の拡大に伴い、それを支えていく組織基盤の強化が必要となっている。このため、IVYみやぎ事務所(宮城県仙台市青葉区)を拠点に、広報活動の強化や支援者の拡大、新たな人材獲得、ファンドレイジングを目的とした事業を実施している。今年は、独自事業は行わず、他部門事業への協力を行った。</p> <p>1) 広報支援 □「中東理解講座」(11/26) (緊急部門、本部実施事業)詳細は上記。 □「シリア難民ワークショップ」(2/13) (緊急部門、国際理解教育部門、本部実施事業)詳細は上記。</p> <p>2) 仙台地球フェスタへの参加 仙台市青葉区の仙台国際センター展示棟で開催された「せんだい地球フェスタ」にIVYとして出展。イラク難民支援事業、IVYyouth のカンボジア事業等を紹介した。また、会議室では、開発教育のワークショップを2つ IVYyouth が行った。こういったイベントでは、来場者に立ち寄ってもらうための工夫が必要だが、今年は「難民クイズ」で来場者の</p>	4/1 ～ 3/3 1	仙台市	4人	417人	186

	<p>関心を引くことができ、130名を超える方々がクイズに挑戦してくださいました。難民クイズから、中東の状況、日本の国際協力へと関心を広げることが出来た。</p> <p>主催者発表で約 4,000 人が来場した。(IVY のブース、ワークショップに立ち寄った人数 320 名)</p>					
--	--	--	--	--	--	--

以上